

令和4年度 三木市特定教育・保育施設評価 目標達成計画

(園所名) 三木市立緑が丘東幼稚園

観点	①心の育ちを優先し、生きる力の基礎を育む教育・保育
項目	内 容
園の現状や取組、課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「子ども主体の遊び」を中心とした保育を実践している。 ・ 子どもたちが自ら「やりたい」とうずうずできるような遊びの種を潜ませ、適切な教育内容や環境構成を行うことで、子どもの挑戦意欲を引き出せるよう努力している。年長児4名、年少児11名の少人数であるが、それを「強み」とし、一人一人の「心持ち」を大切にしたい保育を心がけている。
目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 遊びの中の『時機』をのがさないようにしよう！ ・ 子どもたちが教師に求めてきた時、心が動いた瞬間がチャンス（目と目、目線の高さを合わせる・目の表情を意識する） ・ 何が、どのようにわくわくするのかをリサーチ（やりたくてうずうずする気持ちとは…）
目標達成に向けた具体的な取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもの興味・関心や発達段階に基づいた環境構成の工夫 ・ 子ども主体の直接体験を重視する。 ・ 子どもたちの会話やつぶやきに耳を傾け、行動観察をする。 ・ 子どもたちのイメージや心の動きをキャッチする。 （年少児：かじられたイチゴ発見→「誰がかじった？」→あり？ ダンゴ虫？→イチゴを守りたい→だましイチゴを作ろう！） ・ 友だちと相談しながら、遊びを発展させる。（夏まつりごっこ等） ○ 安心して自己表現できるクラス（園）づくり ・ 互いの良さを認め合い、思い合う機会をつくる。（分かち合い） ・ 一人一人の思いを受けとめ、活動の過程を大切にする。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 心が動いた瞬間は、子どもたちの表情や声量、会話や行動などから、“わくわく感” “興味・関心” “欲求” 等として捉えることができた。 （年少児：散歩で見つけたかりんの実→「採りたい」→校務員さんに頼もう →「いいにおい」「おいしいかな」→年長さんに頼もう） （年長児：年少さんのカリんのことを調べよう→「ジュースやジャムにできるんだって」→作りたい→年少さん喜ぶかな？） ※年長児は年少児の思いを受け継ぎ、はりきって活動に取り組むことができた。 ○ 年少児と年長児がお互いを思い合いながら、日々の感動体験を共有していることが、信頼関係につながっていると、改めて感じることもできた。
評価	<p>個性豊かな子どもたちを、それぞれの興味関心や特徴をとらえて、子ども主体の活動に結びつけている。子どもらしいイメージの展開を支えながら、豊かな自己表現ができるように工夫がなされている。「心が動いた瞬間」を丁寧に見とりながら、深く子どもを理解し、適切な援助を加えることで子ども同士のつながりを生むように保育が進んでいる。子どもたちで話し合ったり、認め合ったりすることがしっかりとなされていて、さらに思考や関係性が深まるように保育者が言葉をつなげている。自由な雰囲気の中で子どもたちが伸び伸びと生活しつつ、子どもの主体性や協同性が育まれているといえる。</p>

